

平成28年度 山村活性化支援交付金の評価シート

1. 評価者氏名	宮田 正信			
2. 事業実施主体名	伊自良の里・食と農推進協議会	事業開始年度	目標年度	事業実施期間
3. 事業費(うち国費)	6,401,696 円(6,401,696 円)	平成28年度	平成30年度	平成28年7月25日～平成29年3月31日
4. 取組振興山村名	福井市 上味見村(旧美山町)			
5. 事業評価				
① 総合評価	○ 取組の実施状況や目標の達成に必要な取組が十分に行われたか。 (②から⑤までを踏まえた総合的な評価)		○ 山村活性化支援交付金事業実施計画の目標は達成できているか。	
	評価 (該当に○) (A) 優良 (B) 良好 (C) 低調 (評価理由及び助言等のコメント) 豊かな自然や文化がありながら、生産性、合理性を追求する社会にあって、この地域は、域外に働く場を求めて、若い人の流出が続き、人口減少と高齢化が著しい状況であるが、今、町で暮らす人々はストレスからの解放を求めて、いやしの土地、場を希求している。その受け皿として、この地域はうってつけの場所であると言える。この地域で暮らす人が、楽しく豊かな生活を実現しないと受け皿にはなり得ないし、地域が自立しなければ、継続的な社会は構築できない。それらの観点でこの活動がある訳で、地域の元気を取り戻すための活動の第一歩が踏み出されたことは大きな意味があり、大いに期待したい。		評価 (該当に○) (A) 優良 (B) 良好 (C) 低調 (評価理由及び助言等のコメント) ※各取組の達成率も明示した計算式を記入 初年度の活動であるため、地域の実態や危機感、未来像を共有するための会合や新規事業を開始するに当たっての地域資源の発掘、産地化を目指す作物の導入のための研修会参加などに関わる経費が多いことは肯定できるし、産地化を目指す作物の試作等にも資金を費やしており、資金運営に関して適正な方向性を示している。次年度の活動内容の充実とその用途についての発展性を期待したい。	
② 取組状況	○ 目標の達成のためどのような活動が行われたか。		○ 活動組織は、山村活性化支援交付金事業実施計画の目標は達成できているか。	
	評価 (該当に○) (A) 優良 (B) 良好 (C) 低調 (評価理由及び助言等のコメント) 地域活性のための新しい取り組みの中で、地域の意識を共有することに努力されていることは、まず評価されなければならない。また、自立のための新しい取り組みとして、産地化を目指す作物の導入や活用についての研修会や試作を行っており、方向性として適正で、前向きな取組みと言える。試作に関しては、様々な環境条件下での試みが望まれることや、それらの条件下での成分比較についての取組みが今後求められる。また、マーケティングについては、地域内からの発信強化が求められる。今後の取り組みに期待したい。		評価 (該当に○) (A) 優良 (B) 良好 (C) 低調 (評価理由及び助言等のコメント) この地域の人口減少、高齢化は著しく、これまでの諸々の活動は衰退傾向にあるようだが、何とか豊かな地域社会、地域文化を残して未来につなごうという意識は、特に高齢者層に強く、これまで関わることのなかった人まで、次第に輪が広がっている。そして、その活動に若者も呼応するようになってきた。しかしながら、豊かな地域の持続性を確保するにしても自立までのフェンドが必要で、交付金があることを担保している。この活動を契機に、地域内の多くの人が、活動に参加し、自立を目標に活動を推進されたい。	
⑤ その他	そもそも山村活性化のための活動は、山村の果たしてきた公益的機能を取り戻し、豊かな地域社会を構築することであろう。環境の保全や水資源の涵養、生物多様性の維持、豊かな暮らしと文化、教育、福祉など山村は林産物の生産もさることながら、わが国の社会性を追求するマネー資本主義では、地域に定住することすら困難にし、前述した機能が急激に喪失しつつある。これらの機能を再生させると共に、都市生活者のいやしの場としての山村の役割は次第に大きくなりつつある。とは言え、山村地域で暮らす人々の生活が、確立され、持続されなければ、山村の役割を果たすことができない。高齢化が顕著な地域にあって、地域住民だけであるいは行政支援だけで、山村の再生は不可能で、自助、互助、共助、公助の取り組みが求められる。この活動は、その取り組みを支援し、地域の自立を促す活動であると意識して、地域ぐるみで取り組んでいただきたい。			

※評価者(学識経験者等第三者)が複数いる場合には、評価者間で調整した評価結果を記載すること。